◀地域の高齢者福祉の充実を図ります

白神トピックス

「白神憩の郷」が完成

白神憩の郷

昨年９月に着工した特定施設サービス付き高齢者向け住宅「白神憩の郷」が完成し、４月17日に竣工式が行われました。ＪＡ役職員や能代市、ＪＡ秋田中央会、工事関係者ら約60人が出席し神事で玉串をささげ、完成を祝いました。

神事後の記念式典で佐藤組合長は開設までの経緯などに触れながら「住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けられるよう、医療、介護、予防、生活支援が一体的に提供される施設を目指し、役職員一体となって、高齢者福祉事業に取り組んでいく」とあいさつ。また、齊藤能代市長は「高齢者の方がふるさとで元気に過ごせる事は大変素晴らしい事。この施設によって福祉サービス、介護サービスの選択肢が増える。利用者目線に立ったサービスを提供してもらいたい」と激励しました。

白神憩の郷は、木造２階建てで、延べ床面積1778.69㎡。居住スペースは全個室40戸を設置しており、１階には大浴場や寝位入浴にも対応した浴室、食堂や団らん室などがあり、２階には多目的スペースや白神山地を望める展望コーナーなどがあります。また、屋外には畑を設けており、草花や野菜の栽培にも取り組めるようになっています。

地域一体で能代工業バスケットボール部を応援

ＪＡあきた白神

全国制覇を目指す能代工業高校バスケットボール部を応援しようと、ＪＡと能代市は同部の寮生と下宿生に向けて１人１俵（60キロ）、計37俵の「ＪＡあきた白神米」を寄贈しました。

この活動は「バスケの街づくり」の一環として行われ、今年で６回目となります。贈呈式で佐藤組合長は「地元で１番おいしいあきたこまちを食べて日本一を目指し、自分たちの歴史の１ページを築いてください」と激励しました。また、児玉凛斗主将からは「頂いたお米をしっかり食べて、全国の強豪チームに負けない体づくりをしていきたい」と誓ってくれました。

▲能代工業高校バスケットボール部へ白神米を寄贈

▲佐藤組合長は副会長に任命されました

秋田県初開催に向けて

ＪＡあきた白神

今年10月に能代市で開催される「全国ねぎサミットinのしろ」の実行委員会の設立総会が４月17日、能代市役所で開かれました。事業計画案、収支予算案などを承認し、サミットの日程は10月７日、８日、会場は市役所駐車場、さくら庭、けやき公園、旧料亭金勇と決定しました。

全国ねぎサミットは平成22年の埼玉県深谷市を皮きりに、これまで各産地で７回開会されています。秋田県での開催は初ですが、当ＪＡは２回目から毎回参加しており、「白神ねぎ」の名も広まってきています。今回のねぎサミットでさらなる消費拡大、知名度向上を図っていきます。